

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会
第 52 回 原子燃料サイクル専門部会 議事録

1. 日時 2012 年 9 月 6 日 (木) 13:30～15:40
2. 場所 5 東洋海事ビル会議室 A+B
3. 出席者 (順不同, 敬称略)
(出席委員) 有富部会長, 河西副部会長, 加藤幹事, 天野, 内山, 浦上, 大上, 川上, 木倉, 仙波, 高橋, 仲神, 平井, 藤田, 丸岡, 山本 (16 名)
(代理出席委員) 井上和久代理 (国土交通省海事局/重入委員), 遠藤保美代理 (原技協/柳原委員), 高瀬敏郎代理 (三菱マテリアル/坂下委員) 保坂克美代理 (東芝/小畑委員), 吉原恒一代理 (原技協/新堀委員) (5 名)
(欠席委員) 大久保委員, 金木委員, 中島委員, 深澤委員 (4 名)
(説明者) [輸送容器分科会] 松本幹事/溝渕常時参加者, [LLW 処分安全評価分科会] 中居委員/高瀬委員/関口委員 (5 名)
(オブザーバ) 池田, 北島, 竹内, 都筑, 安田 (5 名)
(事務局) 室岡, 新井 (2 名)

4. 配付資料

- | | |
|-----------|---|
| FTC52-0 | 第 52 回原子燃料サイクル専門部会議事次第 |
| FTC52-1 | 第 51 回原子燃料サイクル専門部会議事録 (案) |
| FTC52-2-1 | 人事について (専門部会) |
| FTC52-2-2 | 人事について (分科会) |
| FTC52-3 | 「使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準: 201*」標準委員会報告内容説明 |
| FTC52-4-1 | 「浅地中ピット処分標準」標準委員会書面投票結果 |
| FTC52-4-2 | 「浅地中ピット処分標準 (案)」コメント対応表 |
| FTC52-4-3 | 「浅地中ピット処分標準 (案)」コメント反映版 |
| FTC52-4-4 | LLW 処分安全評価学会標準の名称について (案) |
| FTC52-5 | 原子燃料サイクル専門部会 分科会活動状況 |

参考資料

- | | |
|------------|------------------|
| FTC52-参考 1 | 原子燃料サイクル専門部会委員名簿 |
| FTC52-参考 2 | 標準委員会の活動状況 |

5. 議事内容

(1) 出席者の確認

開始時, 25 名の委員のうち, 代理委員を含め 21 名の出席があり, 成立に必要な委員数 (17 名) を満足している旨が事務局から報告された。

(2) 前回議事録の確認

事務局から, 前回議事録 (案) について説明があり, 前回議事録 (案) は承認された。

(3) 人事について（専門部会人事，分科会）

事務局から，FTC52-2-1（専門部会），FTC50-2-2（分科会）に基づき，専門部会，分科会の人事について以下の通り紹介を行った。

1) 専門部会

①委員の退任（報告事項）

なし

②新委員の選任（決議事項）

なし

③委員の再任

木倉 宏成（東京工業大学）

審議の結果，木倉委員の再任が承認された。

2) 分科会

①委員の退任（報告事項）

・LLW 処分安全評価分科会

東 利彦（関西電力（株））

長谷川 信（（独）日本原子力研究開発機構）

②委員の承認【承認事項】

・LLW 処分安全評価分科会

稲継 成文（関西電力（株））

船橋 英之（（独）日本原子力研究開発機構）

以上2名の委員が選任されたことが報告され，承認された。

(4) 【報告】「使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準：201＊」標準委員会報告内容説明

輸送容器分科会の松本幹事および溝渕常時参加者より FTC52-3 に基づき，保安院コメント対応の状況報告があった。主な議論は，以下のとおりである。

Q. 現在の標準委員会での状況を説明いただきたい。

→ 標準委員会での書面投票で反対票があったため，再投票となり，再投票において賛成票が2/3以上で可決されたが，大きな反対意見が解消されていなかったことから，反対意見のある委員と輸送容器分科会で個別の調整を実施した上で次回の標準委員会において調整結果を報告するようにと指示を受けていた。反対意見を投じた保安院委員との2回の打合せを行い，コメント対応及び標準案修正を実施したが，前回の原子燃料サイクル専門部会の直前に，保安院から追加コメントが示されたため輸送容器分科会での検討が実施できなかったことから，前回の標準委員会での審議を延長させていただいた。輸送容器分科会にて追加コメントへの対応を決定した結果として，今回の内容を次回の標準委員会で報告する。

Q. 資料内容はコメントを保安院・松田氏は承認しているのか？

→ 標準委員会で反対意見を出された保安院・牧委員のところに，学会事務局から8月30日に資料を送付している。保安院内部の個別の方には連絡は行っていないが，現段階で保安院・牧委員からのコメントはない。

(5) 【報告】「浅地中ピット処分標準」標準委員会書面投票結果報告およびコメント対応

事務局から FTC52-4-1 に基づき、「浅地中ピット処分の安全評価手法：201X（案）」の標準委員会決議投票の結果について説明があった。反対票があったため、1 度は否決されたが、その後、反対票を投じた委員と分科会で反対意見を解消するための話し合いを実施し、結果、9 月 4 日に反対票は取り下げられ、賛成票を得られた。

LLW 処分安全評価分科会の中居委員から FTC52-4-2, 4-3 に基づき、コメント対応の説明が、吉原委員から FTC52-4-4 に基づき、学会標準の名称について説明があった。

有富部会長より、「一部追加的な文章はあるが、用語の説明や内容の理解を得るためであり、エディトリアルな修正と判断する。また本日のコメントに対しても、エディトリアルな範囲で修正し、標準委員会の資料とすること」とのコメントがあった。質疑等については以下のとおり。

《コメント対応》

C. 対応表の No. 7 について、解説での対応であることを明記した方がよい。

Q. PDF 化でのエラーについて、指摘箇所以外はチェックしたか？

→ すべての箇所はチェックしていないが、サイズを圧縮して PDF 化する場合にエラーが出ており、今後、改善する。

C. No. 45 で、保安院の内規と附属書 B との関係が示されているが、この標準は申請書に記載する安全評価に関するもので、施設は具体化しており、そのために内規があるのでは。

→ 別のコメント対応で「具体化する前においても」と修正した。安全評価の開始時点では、シナリオは固定化していないので幅広に核種を選定し、最終的に内規に従っていればよいという意味合いである。

C. 内規が優先で、附属書 B は絞り込みのプロセスで使うことができる、ということであれば、追加の文章を 2 つに区別するのがよいのでは。

→ 「…内規に定められている。」とし、文章を 2 つに分ける。

Q. P. 29 の図 B. 1 は内規の存在も反映しているか？

→ フローの最後の 3 つに内規が関係すると読める。

Q. 3. 11 の記載を解説に追記したが、前段の標準委員会や専門部会の活動を記載している箇所ではどうするか？

→ 標準の内容によって 3. 11 との関連性も変わってくる。標準委員会にはかり、それに応じて専門部会の欄での記載を考える。

C. 学会標準としては、3. 11 について、現状の通り、解説で考え方を整理していればよいと考える。

《学会標準の名称について》

Q. トレンチ処分の「極めて…」という表現をやめて、統一的なタイトルにしたいということか？

→ その通り。

C. 法令上は濃度で廃棄物を分けており、標準ではピットとトレンチを処分形態で分けることになる。トレンチに仕切り板を入れたらピット処分になるという議論になると混乱するのでは。

C. 法令のトレンチ処分の定義では、地上又は地表から深さ 50m 未満の地下とあり、地上、半地下、地下のタイプがあると読める。トレンチはその代表的な形態という位置づけになる。

C. 施設形態で標準を分けるのであれば、施設の定義が重要になる。

(6) 【報告】 原子燃料サイクル専門部会 分科会活動状況 (FTC52-5)

事務局より FTC52-5 に基づき原子燃料サイクル専門部会分科会活動状況の報告があった。

6. その他

- ・ 次回標準委員会で、標準書籍に掲載している「日本原子力学会における原子力標準の策定について」および「専門部会の活動について」の改稿を検討することが提案された。
- ・ 2012年9月19日から21日に広島大学東広島キャンパスで開催される日本原子力学会秋の大会について紹介があった。
- ・ 次回は11月22日(木)に開催することとなった

以上